

函館中央病院 臨床研修プログラム

（令和8年度版）



社会福祉法人 函館厚生院

函 館 中 央 病 院

●臨床研修プログラム

・プログラムの特色と目標

特色: 1) 厚生労働省のカリキュラムを最低限の研修内容とし、研修医各自の研修希望・目標に配慮し、個別的内容を付加したプログラムを設定する研修方法である。

2) 当院は、地域の第一線の一般臨床病院であり、疾患領域も偏ることなく、豊富な症例を通じて、急性疾患から慢性疾患まで、多岐にわたる臨床研修ができるプログラムとなっている。

目標: 将来どのような専門分野に進むにせよ、外来・病棟・救急各部門の診療ができる資質を備えた総合臨床医 (General Physician) を2年間で育成するための臨床研修プログラムである。

・研修方式

1) 1年次: 必修科目である内科24週以上(糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、総合内科)、救急8週以上(内4週までの麻酔科指導医による専門研修。その他、地域における二救急指定日において、救急専門医(診療支援)、内科系、外科系、小児科の各1名を指導医とした研修体制にて対応する。)、外科4週以上、麻酔科4週以上、小児科4週以上、産婦人科4週以上、精神科4週以上のローテーションとし、補足については、2年次の選択科研修にて対応する。

2) 2年次: 必修科目である地域医療4週以上のローテーションとし、救急4週の研修については、1年次同様、二次救急指定日にて対応する。それと1年次の補足以外は選択科研修期間となり、将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科を選択する。選択科目により、協力型病院と協力して研修を実施する。

※一般外来研修は、内科および小児科、外科研修時に並行研修にて行い、地域医療研修時に協力型病院にて行い達成する。

※二次救急研修については、2年間を通して、診療科ローテーションとは別枠にてローテーションを組んでの対応とし、翌日の勤務免除とする。

※地域医療研修は、松前町立松前病院・ななえ新病院・八雲総合病院・奥尻町国民健康保険病院(4病院から選択)における地域医療の理解と実践に関する研修にて対応する。

※研修期間中のアルバイト診療は、禁止する。

・研修参加施設

基幹型病院：社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院

協力型病院：社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院(精神科)

松前町立松前病院(地域医療)

社会福祉法人函館厚生院 ななえ新病院(地域医療)

八雲総合病院(精神科・地域医療)

奥尻町国民健康保険病院(地域医療)

北海道大学病院(一般診療)

函館稜北病院(総合診療)

市立函館保健所(保健・医療行政)

渡島保健所(保健・医療行政)

・研修内容

1) 総合診療方式

2) 選択科の期間は各専門科でのローテーション研修とする。

・研修評価方法

研修開始に当たり、PG-EPOCを使用し、各研修医に自己評価を行わせる。指導医は随時、研修医の自己評価を点検し、研修医の到達目標が達成されるように援助するとともに、評価を行う。

・プログラム修了の認定

研修を終了した時点で、病院長は臨床研修管理委員会の意見、研修医からの一般的目標達成のための行動目標自己評価を参考に修了を認定し、認定証明書を発行する。

・研修修了後の進路

3年目からは当院職員として内科系・外科系・小児科・その他診療科において後期研修等が可能である。

●臨床研修分野ごとの研修期間及び臨床研修病院

〔研修プログラム責任者名および役職：片岡 宙門 函館中央病院 副院長〕

(凡例)

		4月											3月	
		4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
1年次	研修分野	内科*2 (総合内科・腫瘍内科・糖尿病・内分泌内科・消化器内科・循環器内科)						麻酔科	救急*1 (麻酔科)	小児科 *2	外科	産婦人科	精神科	救急*1
	研修病院・施設名	函館中央病院(精神科)・・・函館渡辺病院・八雲総合病院)												
2年次	研修分野	地域医療*2	救急*1	自由選択科*3										
	研修病院・施設名		函館中央病院	函館中央病院・北海道大学病院・函館渡辺病院・八雲総合病院・函館稜北病院										

地域医療：松前町立松前病院・ななえ新病院・八雲総合病院・奥尻町国民健康保険病院 保健行政：保健所（市立函館・渡島）

*1：救急部門研修は、麻酔科(ICU)における挿管・血管確保などの基本手技の習得(8週以上の内4週)および、救急外来(当直)における初期救急医療の現場体験(2年間を通しての輪番日におけるローテーションにて8週分以上)とする。

*2：一般外来研修は、内科および小児科研修時に並行研修にて行い、地域医療研修時に協力型病院にて行い達成する。

*3：将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科で研修。選択科目により、協力型病院と協力して研修を実施。

●令和8年度 年間スケジュール（予定）

		4月													3月
		4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	
1 年 次	ローテーション(凡例)	内科*2 (総合内科・腫瘍内科・糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科)						麻酔科	救急*1 (麻酔科)	小児科*2	外科	産婦人科	精神科	救急*1	
	共通事項	オリエンテーション													
		救急研修													
		ジャーナルクラブ (毎週火 17:00～17:30)													
		レクチャー (毎週月 17:00～17:30) ※変動あり													
		救急研修カンファレンス (毎週水・金 16:00～17:00)													
		CPC参加(年1回開催)													
		剖検〔助手／見学希望 ⇒ 随時〕													
		各診療科におけるカンファレンス													
2 年 次	ローテーション(凡例)	地域医療*2	救急*1	自由選択科											
	共通事項	救急研修													
		ジャーナルクラブ (毎週火 17:00～17:30)													
		レクチャー (毎週月 17:00～17:30) ※変動あり													
		救急研修カンファレンス (毎週水・金 16:00～17:00)													
		CPC発表(年1回開催)													
		剖検〔助手／見学希望 ⇒ 随時〕													
		各診療科におけるカンファレンス													
全般	臨床研修管理委員会 (年3回定例開催/修了判定会議を含む)														
	臨床研修管理委員会 コアメンバー会議・カリキュラム部会(随時)														
	臨床研修病院 合同プレゼン			選考試験	マッチング 中間公表	マッチング 決定	仮契約					国家試験			
	実習生受入(スチューデントドクターを含む)														

氏 名	研修領域	所 属	役 職	資 格 等		臨床研修管理委員会
金山 雅弘	整形外科	函館中央病院	病院長	指導医	病院管理者	委員
片岡 宙門	産婦人科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医	プログラム責任者	委員長
橋田 秀明	外科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		副委員長
佐々木 春喜	内科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		委員
紺野 潤	消化器内科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
人見 遥平	消化器内科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		委員
佐々木 秀直	脳神経内科	函館中央病院	名誉臨床顧問	臨床研修指導医		委員
笹木 有佑	腫瘍内科・緩和ケア科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		***
小野 真佑子	糖尿病・内分泌内科	函館中央病院	科長	指導医		委員
斉藤 尚孝	循環器内科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医		委員
片山 貴史	循環器内科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
千葉 泰之	循環器内科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
佐々木 真樹	小児科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		委員
木田 毅	小児科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
水上 晋	小児科	函館中央病院	嘱託員	臨床研修指導医		***
中島 美佳	小児科	函館中央病院	主任科長	臨床研修指導医		***
児嶋 哲文	外科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
平口 悦郎	外科	函館中央病院	副院長	臨床研修指導医		***
高橋 徹	外科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
石倉 久光	整形外科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
塩田 浩平	整形外科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
草島 英梨香	形成外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
木村 中	形成外科	函館中央病院	嘱託医	臨床研修指導医		***
吉田 俊人	心臓血管外科	函館中央病院	主任科長	臨床研修指導医		***
村瀬 亮太	心臓血管外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
本橋 雅壽	心臓血管外科	函館中央病院	名誉院長	臨床研修指導医		***
今井 哲秋	脳神経外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
堀田 萌子	皮膚科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
鈴木 英孝	泌尿器科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
田沼 史恵	産婦人科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		***
相原 佑亮	眼科	函館中央病院	科長	指導医		委員
安川 真一郎	耳鼻咽喉科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
吉田 幸宏	メンタルヘルス科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
瀧川 聡	麻酔科	函館中央病院	診療部長	臨床研修指導医		委員
高橋 千尋	放射線科	函館中央病院	科長	臨床研修指導医		委員
吉川 仁人	放射線科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		***
藤田 信行	放射線科	函館中央病院	臨床顧問	臨床研修指導医		***
中里 信一	病理診断科	函館中央病院	医長	臨床研修指導医		委員
辻 司	歯科口腔外科	函館中央病院	科長	指導医		委員
水島 貴之	***	函館中央病院	事務部長	事務部門責任者		委員
吉川 真由美	看護部	函館中央病院	看護部長	看護部門指導責任者		委員
久米 央子	薬剤部	函館中央病院	薬剤部長	指導者		委員
大井 雅人	診療協力部	函館中央病院	診療協力部管理担当部長	指導者		委員
常德 正洋	放射線診断科	函館中央病院	放射線科技師長	指導者		委員
羽根川 立人	検査科	函館中央病院	検査科技師長	指導者		委員
大北 健雄	***	おおきた内科胃腸科医院	名誉院長	***		外部委員
小林 靖広	***	小林法律事務所	弁護士	***		外部委員
三國 雅彦	精神科	函館渡辺病院	副理事長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
八木田 一雄	地域医療	松前町立松前病院	病院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
高金 明典	地域医療	ななえ新病院	病院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
加藤 達哉	一般診療	北海道大学病院	教授	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
下出 和美	精神科・地域医療	八雲総合病院	副院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
泉里 豪俊	地域医療	奥尻町国民健康保険病院	院長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
佐々木 悟	総合診療	函館稜北病院	理事長	臨床研修指導医	研修実施責任者	委員
西條 政幸	保健・医療行政	市立函館保健所	所長	指導医	研修実施責任者	委員
杉澤 孝久	保健・医療行政	北海道渡島保健所	技監兼保健環境部長	指導医	研修実施責任者	委員

●病院群概要

函 館 中 央 病 院（基幹型病院）

- 病院名 函館中央病院（プログラム責任者：片岡 宙門）
- 開設者 社会福祉法人 函館厚生院
- 病床数 一般 527 床 (ICU8 床) (NICU9 床)
- 診療科 内科、消化器内科、腫瘍内科、緩和ケア科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、乳腺外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、病理診断科、歯科口腔外科
- 病院長 金山 雅弘
- 所在地 〒040-8585 函館市本町 33 番 2 号
- 電 話 TEL0138-52-1231(代) FAX0138-54-1821

臨 床 研 修 理 念

- ◇命と健康を第一に尊重するプライマリ・ケアを行なえる医師の育成を目指す。
- ◇研修医の個性を活かし、伸ばしながら、医師としての人格を育む。

病院の特色

函館中央病院は昭和 5 年に社会福祉法人函館厚生院が経営する病院として開設され、創立 90 年を超える歴史ある病院です。

当院は「心ある医療」を基本理念とし、地域の基幹病院として急性期医療を中心に、小児・周産期医療、救急医療に力を入れると共に北海道がん診療連携指定病院としてがん医療にも注力してまいりました。また患者さまの権利を尊重しつつ、皆さまに安心・安全なチーム医療を提供することを基本方針としております。そのためには地域の医療機関との連携はもちろんのこと行政とも連携しつつ、職員が安心して働ける職場環境づくりと人材育成に力を入れております。

函館渡辺病院（協力型病院・精神科領域）

- 病院名 函館渡辺病院（研修実施責任者：三國 雅彦）
- 開設者 社会医療法人 函館博栄会
- 病床数 一般 120 床、精神 419 床
- 病院長 菅原 隆光
- 所在地 〒042-8678 函館市湯川町1丁目 31 番1号
- 電 話 TEL0138-59-2221(代)

松前町立松前病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 松前町立松前病院（研修実施責任者：八木田 一雄）
- 開設者 松前町長
- 病床数 一般 93 床
- 病院長 八木田 一雄
- 所在地 〒049-1593 松前郡松前町字大磯 174 番地の 1
- 電 話 TEL0139-42-2515(代)

ななえ新病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 ななえ新病院（研修実施責任者：高金 明典）
- 開設者 社会福祉法人 函館厚生院
- 病床数 一般 49 床、療養 150 床
- 病院長 高金 明典
- 所在地 〒041-1195 亀田郡七飯町字本町 7 丁目 657 番地 5
- 電 話 TEL0138-65-2525(代)

八雲総合病院（協力型病院・精神科領域・地域医療領域）

- 病院名 八雲総合病院（研修実施責任者：下出 和美）
- 開設者 八雲町長
- 病床数 一般 166 床、精神 100 床、感染症 4 床、療養 40 床
- 病院長 阿部島 滋樹
- 所在地 〒049-3197 二海郡八雲町東雲町 50 番地
- 電 話 TEL0137-63-2185(代)

奥尻町国民健康保険病院（協力型病院・地域医療領域）

- 病院名 奥尻町国民健康保険病院（研修実施責任者：泉里 豪俊）
- 開設者 奥尻町長
- 病床数 一般 17 床、療養 23 床
- 病院長 泉里 豪俊
- 所在地 〒043-1401 奥尻郡奥尻町字奥尻 462 番地
- 電 話 TEL0139-72-3151(代)

北海道大学病院（協力型病院・一般診療領域）

- 病院名 北海道大学病院（研修実施責任者：加藤 達哉）
- 開設者 国立大学法人 北海道大学
- 病床数 944 床
- 診療科 呼吸器内科 リウマチ・腎臓内科 糖尿病・内分泌内科 消化器内科
循環器内科 血液内科 腫瘍内科 消化器外科Ⅰ 消化器外科Ⅱ
心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 泌尿器科 麻酔科 形成外科
乳腺外科 救急科 脳神経内科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皮膚科
精神科神経科 脳神経外科 リハビリテーション科 産科 婦人科 小児科
放射線治療科 放射線診断科・核医学診療科 病理診断科 歯科
- 病院長 南須原 康行
- 所在地 〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目
- 電 話 TEL011-716-1161(代)

函館稜北病院（協力型病院・総合診療領域）

- 病院名 函館稜北病院（研修実施責任者：佐々木 悟）
- 開設者 医療法人社団道南勤労者医療協会
- 病床数 一般 56 床、療養 48 床
- 病院長 木田 史朗
- 所在地 〒041-0853 函館市中道2丁目51番1号
- 電 話 TEL0138-54-3113(代)

市立函館保健所（研修協力施設・保健医療行政領域）

- 病院名：市立函館保健所（研修実施責任者：西條 政幸）
- 所長名：西條 政幸
- 所在地：〒040-0001 函館市五稜郭町 23-1
- 電 話：TEL0138-32-1512(代)

渡島保健所（研修協力施設・保健医療行政領域）

- 病院名：渡島保健所（研修実施責任者：杉澤 孝久）
- 所長名：杉澤 孝久
- 所在地：〒041-8558 函館市美原 4 丁目 6 番 16 号 渡島合同庁舎内
- 電 話：TEL0138-47-9524(代)

●臨床研修の到達目標、方略及び評価

臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

―到達目標―

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

医師としての社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、変化する社会と限りある資源に配慮した公正な医療の提供と公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の意向や自己決定権を尊重しつつ、患者の苦悩・苦痛の軽減と福利の改善を最優先の務めと考え行動する。

3. 人間性の尊重

個々人の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って、患者や家族に接する。

4. 自らを高める姿勢

医師としての自らの言動を常に省察し、資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。

- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、適切に管理する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 主な症候について、鑑別診断と初期対応ができる。
- ② 患者に関する情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮して臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最善の治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的を理解する。
- ② チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応ができる。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

- ① 医療上湧きがってきた疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 早い速度で変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
- ③ 国内外の政策や医療上の最新の動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独での診療を任すことができる。

1. 一般外来

症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。

2. 病棟

入院患者の一般的・全身的な診療とケアができる。

3. 初期救急

頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対応できる。

4. 地域医療

地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織と連携できる。

Ⅱ 実務研修の方略

研修期間

2 年間

ローテーションする分野・診療科

【1 年次必修科目】

内科 24 週（糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、総合内科）

救急 8 週（麻酔科における 4 週分を含む）

麻酔科 4 週

外科 4 週

小児科 4 週

産婦人科 4 週

精神科 4 週（協力型病院（函館渡辺病院、八雲総合病院）にて研修）

【2 年次必修科目】

地域医療 4 週（協力型病院（松前町立松前病院、ななえ新病院、八雲総合病院、奥尻町
国民健康保険病院）にて研修）

救急 4 週

【選択科目】

上記必修科目および、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿
器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、腫瘍内科、脳神経内科、等

44 週（選択科目により、協力型病院（北海道大学病院、函館渡辺病院、八雲総合病院）
と協力して研修）

※救急部門研修は、麻酔科（ICU）における挿管・血管確保などの基本手技の習得（8 週
の内 4 週）および、救急外来（当直）における初期救急医療の現場体験（2 年間を通し
ての輪番日におけるローテーションにて 8 週分）にて達成する。

※一般外来研修は、内科および小児科研修時に並行研修にて研修。地域医療研修時に協力
型病院にて研修し達成する。

※在宅医療研修は、内科および地域医療研修時に達成する。

※CPC 実施施設：函館中央病院

経験症候

下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、妊娠・出産、成長・発達の障害、終末期の症候（29 症候）

経験疾病

下記の疾病を有する患者の診療にあたる。

脳梗塞・脳出血・脳動脈瘤・くも膜下出血、認知症、心筋梗塞、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折・捻挫、糖尿病、脂質異常症、気分障害、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物等）（26 疾病）

Ⅲ 到達目標の達成度評価

各分野・診療科のローテーション終了時に、指導医・上級医・医師以外の医療職が下記の項目からなる研修評価票を用いて、到達目標の達成度を評価し、研修管理委員会で保管する。

到達目標の達成度については、少なくとも年２回、プログラム責任者・研修管理委員会委員による形成的評価（フィードバック）を行う。

到達目標 C. 基本的診療業務については、２年間の研修終了時に、研修管理委員会において、「コンサルテーションや医療連携が可能な状況下での単独診療」を任せることができるかどうか判定する。

研修評価票

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）に関する観察記録・コメント （360 度評価）

- ・ 社会的使命と公衆衛生への寄与
- ・ 利他的な態度
- ・ 人間性の尊重
- ・ 自らを高める姿勢

B. 資質・能力に関する観察記録・試験（マイルストーン）

1. 医学・医療における倫理性
2. 医学知識と問題対応能力
3. 診療技能と患者ケア
4. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践
6. 医療の質と安全の管理
7. 社会における医療の実践
8. 科学的探究
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 糖尿病・内分泌内科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

ローテーション中は当科の病棟・外来コンサルトの窓口として初期対応を行う。

選択者は、期間中に外来・病棟で多くの症例を経験しながら、内分泌代謝疾患に必要な基礎知識と技術を習得できるよう、上級医がサポートする。最終的にローテーション終了時には、当科領域の疾患において適切な初療をすることが出来、必要時に専門医に紹介すべき症例を判断できるようになることを目指す。

また、特に頻度の高い糖尿病と甲状腺疾患については、将来の志望科にかかわらず遭遇する可能性が高いため、当科所属中に習得すべき項目が多い。糖尿病に関しては、患者背景や併存疾患に応じた最適な治療を選択できること、また低血糖などの副作用出現時に適切に対応できることを目標とする。さらに、甲状腺疾患については、抗体を含む血液検査結果を正しく解釈し、正確な診断ができるようになることを目標とする。さらに希望者は甲状腺外科外来で甲状腺エコーを学ぶことも可能である。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
午前	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
午後	病棟業務 教育入院カンファ レンス	病棟業務 ショートレクチャー	病棟業務	病棟業務	病棟業務

1. 病棟業務
- ・ 当院他科入院患者のコンサルテーションに応じ、常時約10人程度の併診患者について各々の病態を把握した上で、指導医の監督のもと治療方針を決定する。
 - ・ 上級医の指導のもと、主科入院患者を担当する。当該患者について病歴、身体所見を聴取し、検査予定や治療方針を決定する。
 - ・ 急性期の症例において、集中治療域での持続インスリン療法や周術期のインスリン管理について経験し、習得する。
 - ・ 毎朝担当患者の回診を行い、患者のプレゼンテーションを行う。
2. 外来業務
- ・ 他科、他院からの外来コンサルト症例について、指導医の監督のもと診察を担当する。
 - ・ 入院中に病棟で担当した症例の退院後診察を担当し、投薬内容などの調整を行う。
 - ・ 外来で施行する内分泌負荷試験について、それぞれの検査の目的、適応を理解し、結果を解釈する。
 - ・ 経口血糖降下薬、インスリンやGLP-1 受容体作動薬などの注射製剤導入時に患者指導に立ち会い、自己血糖測定や注射手技を習得する。

3. 教育入院カンファレンス

毎週月曜日に症例検討会を行う。担当した興味深い症例、もしくは臨床的に重要な文献についてプレゼンテーションを行った後、内容についてのフィードバックとディスカッションを行う。

4. ショートレクチャー（不定期）

内分泌・代謝領域の頻度の高い疾患や、コンサルト依頼があった疾患、内分泌的負荷試験を行った症例について、指導医がレクチャーを行う。

5. 必修で研修すべき疾患が十分に経験できなかった場合には、2年目（自由選択の期間）にこれを補うこととする。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名：消化器内科

1. 特色・ローテーション終了時の到達目標

臨床研修の基本理念に基づいて、4-8週間の研修を行う。Ⅰ到達目標の中に掲げられているC. 基本的臨床業務野中の2. 病棟診療研修を主体とし、3. 初期救急対応 4. 地域医療についても研修する。毎日の手術研修を軸に、周術期の病態を理解し、手術により患者の病態がどのように向上し、社会復帰へつながるかを、主体的に学ぶ。また、周術期医療チームの一因として、外科手術のチーム医療としての面白さを学び、チームに対する貢献ができるよう積極的に外科医、看護師、メディカルスタッ

2. 研修スケジュール・方略

	時間	月	火	水	木	金
朝		レジデント回診 連絡・報告会	レジデント回診 抄読会 外科グランドカン ファレンス（月1 回）	レジデント回診	レジデント回診	レジデント回診 レジデント勉強 会
午前	9:00 12:00	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術
午後	13:00 16:30	病棟多職種 カンファレンス	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術	病棟業務 手術
夕		入院患者検討会 レジデント回診	腹腔鏡ビデオ カンファレンス レジデント回診	術前術後 カンファレン ス レジデント回 診	レジデント回 診	レジデント回 診

*月に1-2回の夜間担当

*緊急入院・手術はその都度対応

1. 病棟業務

- ・主治医を含む指導医・上丘医のもとに、一般外科に必要な基礎知識と技術を習得する。
- ・診察：病棟チームに配属され、1人当たり常時3-8名程度の患者を指導医・上丘系共に受けも持つ。入院患者の問診及び身体所見の把握、予定されている手術の適応や内容を理解する。
- ・検査：受持患者の一般撮影、エコー、CT、MRI、消化管造影、内視鏡などの各種画像検査に出来る限り付き添い、手技及び読影法を学ぶ。
- ・手技：病棟で血管確保、経鼻胃管挿入留置などの手技を実践し習得する。体腔ドレナージには助手として参加する。創部観察、創傷処置、ドレーン管理など、毎日の回診の中で実践し習得する。
- ・周術期管理：担当患者の術前・術後の全身管理について習熟する。
- ・回診：1日2回チームで担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。毎週月曜日の入院患者検討会では受持医（研修医）のプレゼンテーションに基づき検討がなされ、治療方針が決定される。

2. 外来業務

- ・ジュニアレジデントは基本的に外来業務に関与しない。ただし、緊急入院や緊急手術となる患者の外来マネジメントを、主治医を含む指導医・上級医とともにやり、必要な緊急処置を実施する。

3. 手術

- ・月曜日から金曜日まで毎日定期手術があり、それ以外に緊急手術が行われる。
- ・手術助手として参加し、清潔操作・止血法などの外科基本手技を習得する。また、皮膚縫合・局所麻

酔などの小手術手技についても習得する。

4. 救急業務

- ・勤務耳管内の受持患者の急変時には、原則とし受持医（ジュニアレジデント）が最初に対応する。その上、上級医（セカンドコール）と相談し、治療方針を検討する。
- ・救命救急センターからのファーストコールはチーフレジデント（外科専攻医）やスタッフが対応する。入院や手術が決定した際には、必要なマネジメントについてジュニアレジデントも上級医とともに産科実践する。

5. 連絡・報告会

毎週月曜日朝8時から全週から週末にかけての緊急入院例、ICU入室例などの緊急症例を中心に検討する。加えて、その週の手術の確認、カンファレンスの日時の確認など、チーフレジデントを中心に全員で情報を共有する。

6. 病棟多職種カンファレンス

毎週月曜日の午後2時半より、病棟ナースステーションにて行う。主治医、スタッフ医師、レジデント、病棟看護師、退院調整看護師、ソーシャルワーカー、病棟薬剤師、管理栄養士らとともに、疾患だけでなく、患者の精神状態や家族・社会環境についても検討する。

7. 腹腔鏡ビデオカンファレンス

毎週火曜日午後4時から、前週に施行した手術症例について、主に手術術式に関して検討する。腹腔鏡下手術ではビデオを供覧しながら、上級医の意見を交えながら手術手技に関して討論し、各々の術者の手技向上を目指す。

8. 術前術後カンファレンス

毎週水曜日午後5時から、次週に行われる予定手術について、外科医師と放射線科医師が合同で症例検討を行う。ジュニアレジデントは担当患者のプレゼンテーションを行い、全員で術式の妥当性や問題点を検討する。また、前週の術後症例の切除標本を提示し、特記事項を説明する。

9. 必修で研修すべき疾患が十分に経験できなかった場合には、2年目（自由選択の期間）にこれを補うこととする。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 循環器内科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

臨床研修の基本理念に基づいて、4 週間の研修を行う。到達目標に掲げられている基本的臨床業務を学ぶとともに、下記の診察法・検査・手技を学び、マトリックス表に示されている、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態を経験し、理解する。

1. 胸部診察を中心とした循環器科的身体診察を適切に行うことができる。
2. 心電図を自ら実施、解釈できる。負荷心電図について結果を解釈できる。
3. 心臓超音波検査を理解し、結果を解釈できる。
4. 心血管カテーテル検査、X 線 CT、核医学検査に参加し、結果を解釈できる。
5. 心臓マッサージ、電氣的除細動を実施できる。
6. 胸腔穿刺、腹腔穿刺、動脈ライン留置、気管挿管を指導医の指導のもとで実施できる。
7. 圧迫止血法を実施できる。

2. 研修スケジュール・方略

	時間	月	火	水	木	金
朝		症例 カンファレンス				
午前	9:00 12:00	病棟業務 心カテ参加 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応
午後	13:00 16:30	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応	病棟業務 心カテ参加 急患対応
夕				循環器PCI 内科外科 カンファレンス		

On-the-job Training

病棟において循環器疾患患者の診断、治療を上級医と協議しながらおこなう。

■ 病棟業務

1. 主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、循環器内科に必要な基礎知識と技術を習得する。
2. 診察:循環器病棟(ICCU, IMCU, 4W)を中心に、常時 10 名程度の患者を指導医・上級医とともに受け持つ。入院患者の問診および身体所見の把握、予定されている検査・手術の適応や内容を理解する。
3. 検査:受持患者の一般X線撮影、心電図、心臓超音波検査、CT、MRI、心臓カテーテル、心血管造影検査、核医学検査などの各種検査に出来る限り付き添い、手技および診断法を学ぶ。
4. 手技:病棟で血管確保、経鼻胃管挿入留置はもちろん、動脈ライン留置、胸腔・腹腔穿刺、気管挿管など技を実践し習得する。
5. 急性期管理:担当患者の急性期における集中治療について習熟する。
6. 月曜日朝のカンファレンス:朝 8:00 から、新規入院患者や集中治療領域での患者に関してプレゼンテーションと方針決定を行う。Evidence や最新の知識のアップデートを行うとともにチーム診療に参加する。
7. カンファレンス終了後に各病棟での治療方針について再度看護師とのカンファレンスを行う。

■ 外来業務

レジデントは基本的に循環器内科の外来業務に関与しない。

ただし、入院患者の入院前の診察方法や検査、考え方などを学ぶ必要はある。

■ カテーテル検査

1. 基本的に毎日カテーテル検査は施行されており、出来る限り担当患者のカテーテル検査は見学、補助を

状況に応じて、指導医の指導のもとで手技を行う。

2. カテーテル検査に必要な検査・薬剤・検査後の管理に関して学ぶ。

■ 救急業務

1. 時間外の受持患者の急変時などにも、原則として受持医（レジデント）が対応する。その後夜間担当医し、治療方針を検討する。
2. 入院や手術が決定した際には、必要なマネジメントについてレジデントも上級医とともに参加実践する。

■ コンサルテーション

1. 他病棟からの循環器緊急コンサルテーションにファーストコールとして対応する。
2. 救急業務と同様、ICU 夜間担当医と同時に迅速な対応を行う。

カンファレンス・勉強会への参加

月曜朝のモーニングカンファレンスに出席する。

水曜夕方の心カテカンファレンスに出席する。

水曜夕方のハートチームカンファレンスに参加する。

月 1 回の函館循環器病懇談会に参加する。

学会・研究会・学術活動

- ・ 学会活動:指導医のもと症例報告あるいは臨床研究を中心に発表する。
- ・ 論文執筆:学会報告した題材を中心に症例報告、臨床研究を論文として執筆する。

■ 必修で研修すべき疾患が十分に経験できなかった場合には、2年目（自由選択の期間）にこれを補うこと
る。

研修プロセス

病院名：函館中央病院

診療科名：小児科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

1. 臨床研修の基本理念に基づいて、4 週間の研修を行う。特に到達目標の中に掲げられている、基本的臨床業務の中の 1. 一般小児病棟業務を主体とし、2. 小児救急対応についても研修し、以下を到達目標とする。

1. 小児の全身を系統的に診察し、所見を上げ、整理記載できる。

2. 小児の発達段階に対応した、医療提供、並びに、心理・社会的側面への配慮ができる。

3. 小児の健診（母子手帳、予防接種なども含む）の意義を理解できる。

4. 虐待疑いの際の対応を理解し実践できる。

5. 学校、家庭、職場環境に配慮し地域連携に参画できる。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金	土
朝					8:30 小児科 放射線カンファ (月2回)	
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
昼		13:00 新患 プレゼン テーション			13:00 総回診	
午後	16:40 周産期 カンファレンス					

1. 病棟業務

 - ・主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、入院患者の診療にあたる。
 - ・朝夕に担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。
 - ・受持患者の一般撮影、超音波、CT、MRI、などの各種画像検査の読影法を学ぶ。
 - ・ソーシャルワーカーの指導の下、家族関係などの社会調整を行う。

2. 救急業務

 - ・小児科準夜間診療において、医師会の医師の診療の補助を行いながら診療方法を学ぶ。
 - ・上級医の当直業務と一緒にを行い、診療方法を学ぶ。

3. 新患カンファレンス

カンファレンス:毎週火曜日の朝、受持医（研修医）がプレゼンテーションを行い、スタッフ全員で検討がなされ、治療方針の決定、並びに、診療に対する指導が行われる。

4. 病棟回診

回診:毎週金曜日の昼の回診では、アテンディングドクターに対して、受持医（研修医）のプレゼンテーションを行い、検討がなされ、治療方針の確認、決定がなされる。

5. 総回診

金曜日13:00 より東3病棟詰所にて行う。予定されている症例について、小児科医で話し合う。

6. 必修で研修すべき疾患が十分に経験できなかった場合には、2年目（自由選択の期間）にこれを補うこととする。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 内科・総合内科（必修）

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

臨床研修の基本理念に基づいて、4 週間の研修を行う。特に I 到達目標の中に掲げられている C. 基本的臨床業務の中の 1. 一般外来診療の研修 を主体とし、2. 超音波検査 3. 初期救急対応についても研修する。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝			シミュレーション 研修		
午前	外来業務	超音波検査	外来業務	超音波検査	超音波検査
午後	外来業務	超音波検査	外来業務	超音波検査	超音波検査
夕	イブニング レクチャー	ジャーナル クラブ			

1. 外来業務
- ・月曜日と水曜日は午前午後、他院から紹介された初診患者の診療を指導医の監督のもとに行う。

・再診患者の診療を指導医の監督のもとに行う。

・外来患者のレビューを行い、症例を共有する。
2. 超音波検査研修
- ・検査技師の指導の下、腹部超音波の標準操作を行う。
3. カンファレンス
- ・月曜日はEvening Lecture、火曜日はJournal Clubを行う。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 内科・総合内科（選択）

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

臨床研修の基本理念に基づいて、1～4 週間の研修を行う。特に I 到達目標の中に掲げられている C. 基本的臨床業務の中の 1. 一般外来診療の研修、2. 病棟診療 3. 初期救急対応のシミュレーション研修する。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝					
午前	シミュレーション研修	シミュレーション研修	シミュレーション研修	シミュレーション研修	シミュレーション研修
午後	シミュレーション研修	シミュレーション研修	シミュレーション研修	シミュレーション研修	超シミュレーション研修
夕	イブニング レクチャー	ジャーナル クラブ			

1. シミュレーション研修

・研修期間に合わせて以下の項目から選択して研修内容を構成する

①胸部X線単純読影100例： 100 Practice Chest X Rays with Full Colour Annotations and Full X Ray Reports胸部X線の体系的な分析を教えている

②心電図150症例： 150 ECG Cases

③感染症抗菌薬ドリル150例

④決算の読み方60例：末梢血のデータから疾患を鑑別して、次のデータから診断を確定する

⑤輸液計画13症例：スクリブナー著「体液-電解質バランス」：輸液計画を立てて解答で確かめる

⑥基本的臨床手技動画閲覧（108）：Videos in Clinical Medicine（N Eng J Med） 基本的な臨床手技が動画で解説される

⑦ガス分析ケーススタディ

⑧心臓聴診ゼミ：「心臓の聴診」 Abe Ravin

⑨双方向性内科症例：Interactive Medical Case 双方向性内科症例（N Eng J Med）実際の症例をヴァーチャルに体験することができるコンテンツ

⑩Clinical Problem-Solving（N Eng J Med）：実際の臨床現場のように、段階的に症例情報が提示され、臨床推論をたどる

・以上から経験症例の少なかった項目、集中して経験したい項目を選択して研修期間に合わせて研修を組み立てる。

・指導内容はマンツーマンで自ら症例を解決し、シミュレーションの結果をすぐにフィードバックする。

・月曜日はEvening Lecture、火曜日はJournal Clubを行う。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 腫瘍内科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

固形腫瘍患者の外来診療、病棟管理を指導医の下、下記の診療技術を経験・習得し、固形腫瘍に特有の

症状、病態を学ぶことができる。

A. 診察法・検査・手技

1. 固形腫瘍患者の医療面接ができる。
2. 固形腫瘍患者（特に体表腫瘍、リンパ節腫大、肝脾腫）の身体診察ができる。
3. 血算・白血球の分画、生化学などの検査結果を解釈できる。
4. 固形腫瘍患者の画像検査の適応を判断し実施できる。
5. ベッドサイドでの胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺を実施できる。
6. 体液検査（胸水、腹水、髄液）の結果を解釈できる。

B. 症状・病態の経験

1. Oncologic Emergency 症例を経験する。
2. 固形腫瘍（3 がん種以上、計5 例以上）を経験する。
3. 抗腫瘍薬の治療効果と副作用を経験する。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午前	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
午後	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務 緩和ケアカンファレンス	外来・病棟業務
夕	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診

1. 病棟業務

- ・腫瘍内科の指導医および腫瘍内科専攻医とともに朝夕病棟回診を行い、担当患者の日次アップデートおよびアセスメント・プランを協議する。
- ・朝回診後、オンコロジーセンターカンファレンスルームで外来患者の振り返りおよび予習を指導医、腫瘍内科 専攻医、看護師、薬剤師とともに行う。
- ・外来初診患者、担当患者のプレゼンテーションを行い、必要な検査や治療プランを指導医と協議する。

2. 病棟業務

腫瘍内科のスタッフと専攻医の指導の下で入院患者を担当する。
毎日、入院患者の診療録を記載し、上級医のオーディットを受ける。
緊急時に適切なベッドサイドにおける外科的手技・処置を行う。（胸水ドレナージ、腹水ドレナージなど）

3. 外来業務

- ・初診患者の問診・診察を行い、上級医（スタッフ、もしくは、腫瘍内科専攻医）と協議し、治療方針

を立案する。

- ・ 緊急（予約外）で腫瘍内科外来もしくは救急外来を受診した固形腫瘍患者の対応を行う。上級医と相談し、治療方針の検討に参加する。

4. キャンサーボード（他科との症例検討カンファレンス）

- ・ 集学的がん治療体制のもとで担当患者をプレゼンテーションする。

5. 必修で研修すべき疾患が十分に経験できなかった場合には、2年目（自由選択の期間）にこれを補うこととする。

毎週月曜日8時、水曜日8時半より術前症例の検討を行う。症例によっては研修医がプレゼンテーションを行う。
毎週水曜日午後5時から、次週に行われる予定手術について、外科医師と放射線科医師が合同で症例検討を行う。
臨床研修医は担当患者のプレゼンテーションを行い、全員で術式の妥当性や問題点を検討する。
また、前週の術後症例の切除標本を提示し、特記事項を説明する。

月2回（不定期）、金曜日午後5時より、医局にて、入院患者に関するmortality and morbidityカンファレンスを行う。主治医を交え、自分たちの診療を批判的に吟味し、失敗から教訓を得る重要なカンファレンスである。外国人講師を招いて英語によるDiscussionを行う。英語のプレゼンテーションは臨床研修医または外科専攻医が行う。

7. 乳腺症例カンファ

毎週火曜日8時半より、乳腺症例の提示と治療方針に対する議論を行う。

8. マンモグラフィ読影

毎週木曜日8時半からマンモグラフィの2次読影を行う。

研修プロセス

病院名：函館中央病院

診療科名：産婦人科①(必修)

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において、頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応ができるようになること。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス
午前	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来
午後	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/阿木頼	病棟業務（分娩・手術を含む）	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）
夕	16:40 周産期カンファレンス				

A. 周産期

1. 主治医、上級医の指導のもと、臨床研修医1人あたり10数名の患者を受け持つ。
2. 主治医、上級医の指導のもと、産婦人科に必要な基礎知識と技術を習得する。
3. 分娩:上級医とともに妊娠、分娩の各段階に応じて内診所見を取る。上級医とともに分娩に立ち会い、分娩の進行を理解する。
4. 帝王切開術の助手として参加し、外科的基本手技と帝王切開術の適応について習熟する。
5. 検査:胎児エコーとFetal heart rate monitoringの方法とその意義を理解し評価ができるように経験する。
6. NCPR（新生児蘇生法）について理解し実践できるようにする。

B. 婦人科

1. 主治医、上級医の指導のもと、臨床研修医1人あたり10数名の患者を受け持つ。
2. 主治医、上級医の指導のもと、産婦人科に必要な基礎知識と技術を習得する。
3. 診察:入院患者の問診、全身身体所見を正確に取ることができ、それを上級医に報告する。また、上級医と一緒に内診所見をとる。
4. 上級医とともに、婦人科救急疾患の外来患者の診察・治療を行う。
5. 検査:婦人科におけるCT やMRI などの検査の意義と読影法を学ぶ。
6. 手術の助手として参加し、外科的基本手技を習得する。
7. 周術期管理:担当患者の術前、術後の全身管理について習熟する。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 産婦人科②(選択)

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

1回目の研修で修得した産婦人科の基本的知識・技能を基盤として、より主体的に診療に参加し、プライマリ・ケアに必要な産婦人科診療能力をさらに向上させる。さらに、ハイリスク妊娠や婦人科救急、周術期管理など、より高度な臨床判断を要する症例を経験し、エビデンスに基づく診療（Evidence-Based Medicine：EBM）の考え方を身につけるとともに、産婦人科診療における倫理的課題（出生前診断、生殖医療、母児間利益相反、終末期医療、患者の自己決定支援など）について理解を深める。また、臨床研究や治

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス	8:15 カンファレンス
午前	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来
午後	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来	病棟業務（分娩・手術を含む）/外来
夕	16:40 周産期カンファレンス				

A. 周産期

1. 主治医、上級医の指導のもと、臨床研修医1人あたり10数名の患者を受け持つ。
2. 上級医の指導・監督のもと、受け持ち患者について診断・治療計画を立案する。
3. 分娩について、その進行を主体的に評価し、内診所見、胎児心拍数陣痛図（CTG）の判読を行い、管理方針を医と検討する。
4. 帝王切開術では助手として参加するだけでなく、術前計画、手術手技、術後管理まで一連の流れを理解する。
5. 胎児超音波検査において、胎児の成長と異常所見の有無、羊水量、胎位、胎盤位置について評価できるように。
6. ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、早産、胎児発育不全など）の管理について学ぶ。
7. 日本母体救命システム普及協議会（J-CIMELS）の母体救命システムについて学び実践できるようになる。
8. 周産期カンファレンスにおいて担当症例を提示し、診療方針についてディスカッションする。
9. 遺伝カウンセリングに同席し、その実際と遺伝医療における倫理的配慮や意思決定支援について学ぶ。
10. 当科で施行している臨床研究の意義、研究倫理について学び、研究成果を臨床に還元する重要性を理解する。

B. 婦人科

1. 主治医、上級医の指導のもと、臨床研修医1人あたり10数名の患者を受け持つ。
2. 担当症例について、術前評価、治療方針、術後管理まで一貫して担当する。
3. 異所性妊娠、卵巣腫瘍茎捻転、骨盤内感染症など産婦人科救急疾患の初期診療を主体的に行い、上級医へプレレーションする。
4. 手術では助手として積極的に術野展開や縫合など基本手技を行う。
5. 婦人科悪性腫瘍症例について、術式決定、病期分類、化学療法、放射線療法、緩和医療について理解する。
6. 担当症例についてEBMに基づいた文献検索を行い、診療へ反映する。
7. 当科で施行している治療の意義について学ぶ。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科： 麻酔科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

臨床医として呼吸、循環、疼痛、体液管理が適切に行えるようになるために、麻酔管理を通じて基本的な知識、技術、態度を身につける。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
午前	術前カンファレンス 手術麻酔 手術前診察	術前カンファレンス 手術麻酔 手術前診察	術前カンファレンス 手術麻酔 手術前診察	術前カンファレンス 手術麻酔 手術前診察	術前カンファレンス 手術麻酔 手術前診察
午後	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔

1. 手術麻酔会
- ・シニアレジデントあるいは指導医と共に麻酔術前問診・診察を行い、麻酔計画を立案し麻酔業務を行う。適切な術後鎮痛法を修得する。麻酔後回診を行い一連の周術期管理を理解する。
 - ・気道確保、バッグとマスクによる人工呼吸、気管挿管、観血的動脈圧測定、血液ガス採血、術中管理、腰椎穿刺などの手技をシニアレジデントあるいは指導医の監督下に修得する。
2. 術前特別外来（木曜日 1 ～ 2 回/ローテーション）
- 特別外来ではハイリスク症例の病歴を系統的にまとめ、指導医と共に術前診察を行い、リスクに応じた麻酔計画を立案し、麻酔説明を行う。一般外来では、指導医とともに成人・高齢者・小児・妊婦など様々な症例に対する全身麻酔や区域麻酔・無痛分娩など麻酔のリスクを理解し説明する。
3. 術前カンファレンス
- 翌日の症例に関し、麻酔科・看護師・薬剤師で患者の状態を把握し、麻酔管理の最終的チェックを行う。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名：整形外科

1. 特色・ローテーション終了時の到達目標

骨折や靭帯損傷などの急性外傷、変形性関節症や脊椎症などの変性疾患、骨粗鬆症・代謝性疾患などを幅広く診療しており、また専門的な知識やスポーツ外傷に対する治療（肩関節脱臼や靭帯損傷に対する手術治療）、人工関節置換術、内視鏡（関節鏡）を用いた低侵襲手術なども積極的に行っている。整形外科を選択した研修医は、基本的診療能力の習得に加え、整形外科専攻医に準じた研修を行うことにより、日常診療、救急診療で経験する整形外科疾患患者に対応できる診療能力を身に付ける。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金	土
	術前 カンファレンス	術後 カンファレンス 症例検討会	症例検討会	抄読会 症例検討会	症例検討会	
午前	外来・病棟	外来・手術	外来・手術	検査	外来・手術	外来
午後	検査・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	
		脊椎 カンファレンス 症例検討会				

1. 病棟業務

- ・主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、10～20 名程度の入院患者を担当し、整形外科に必要な基礎知識と技術を習得する。
- ・患者を入院時から担当し、診断・治療に必要な検査の組み立て方を学び、周術期の全身管理について習熟する。
- ・朝夕に担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。
- ・外傷や手術患者の創部管理、ドレーン管理、包帯法、副子固定、ギプス固定など、指導医・専門医監督の下で習得する。

2. 外来業務

- ・研修医は基本的に外来業務に関与しない。ただし、緊急入院や緊急手術となる患者の外来マネジメントは主治医を含む指導医・上級医とともに積極的に行い、必要な緊急処置を実施する。

3. 手術業務

- ・定期手術があり、それ以外に緊急手術が適時追加となる。
- ・選択科研修では積極的に手術に入り、縫合法をはじめとした外科的基本手技に加え、整形外科の基本手技も実施する。

4. 救急業務

- ・救命救急センターからのファーストコールはオンコールドクター（通常、専攻医）が担当する。状況が許す限り救急での診察、処置を指導医のもとに行う。
- ・入院や手術が決定した際には、必要なマネジメントについて研修医も上級医とともに参加し実践する。

5. カンファレンス等

・整形外科抄読会

毎週木曜日と金曜日の朝、整形外科医局にて行う。整形外科スタッフ・専攻医・研修医は査読制度のある英語論文を紹介し、内容を概説しながらその論文に関して吟味、討論する。研修医はローテーション中に少なくとも1回抄読会を担当する。

・術前カンファレンス

毎週月曜日の朝、手術室看護師、理学療法士を交えて行う。翌週に行われる予定手術についての症例検討を行う。

・部長回診

毎週火曜日午前7時30分から、理学療法士、病棟看護師を交えて行う。病棟入院患者の病状確認を行う。研修医は担当患者のプレゼンテーションを行い、治療方針の確認を行う。

・多職種合同病棟カンファレンス

毎週金曜午後5時00分から、5E ナースステーションで行っている。理学療法士、病棟看護師、医療社会事業部などの関係者を交え、疾患だけではなく、患者の精神状態や家族・社会環境についても検討し、適切な退院支援、ゴールの設置をチーフレジデントが進行して行う。

・専門診療勉強会

研修ローテーション中に専門スタッフによる分野別勉強会を行う。毎週火曜日昼に様々な整形外科疾患に関する知識や診察手技などを学ぶ。

・ER・整形外科合同カンファレンス

隔月に一度、救急部と合同で症例検討を行う。共有した症例の経過報告や症例に関するレクチャーなどを含む。

・院外研修会

当院を含む複数施設により年4回の田施設合同研究会・研修会を開催している。開催時期が選択科研修中の際は参加する。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院 診療科名： 形成外科

1. 特色・ローテーション終了時の到達目標

4 週間を最低単位として、指導医・上級医の指導のもとに研修を行う。形成外科の医療全体の中での位置を理解し、体表面の損傷、病変のプライマリ・ケアが行える技能を身に付け、形成外科医としての縫合法を取得する。
形成外科で扱うことの多い疾患・病態を経験し、基本的な対処法（検査の指示など）につき知識を取得する。他科との連携や科内のチーム医療の在り方を理解し、その位置づけの上に行動が出来るよう目指す。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金	土
朝 8:30-9:15	病棟カンファと 病棟回診	病棟カンファと 病棟回診	病棟カンファと 病棟回診	病棟カンファと 病棟回診	病棟カンファと 病棟回診	病棟カンファと 病棟回診
午前	入院・ 外来手術	入院・ 外来手術	入院・ 外来手術	入院・ 外来手術	入院・ 外来手術	外来診察見学
午後	入院・ 外来手術	外来診察見学	外来診察見学	入院・ 外来手術	入院・外来手術 (外来診察 見学)	褥瘡回診 病棟リハビリカ ンファ 外来診察見学
夕				症例検討会		

1. 手術への参加
- ・原則的に実施されるすべての手術（緊急・準緊急手術含む）に助手として参加する。
 - ・手術を要する形成学的疾患の適応や手術時期、当科で施行する術式や教科書的な手術方法についての知識を得る。
 - ・手術の流れを理解し、体位の取り方や準備、清潔野の形成と保持が出来るようになる。
 - ・手術器具や材料の基本的な選択や取扱について理解し、適切に実施出来るようになる。
 - ・夜間・救急の疾患や外傷症例については指導医・上級医のもとに担当し、手術だけでなく、術後の病棟診察、外来診察への流れを理解する。
2. モーニングカンファと病棟回診・病棟業務
- ・朝8：30開始のカンファで入院中の患者の昨夕から今朝までの変化の報告を受け、以降の処置方法・治療計画の立て方を各疾患・術式ごとに学ぶ。
 - ・主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、形成外科としての処置法を習得する。
 - ・傷被覆材や外用剤の適応を理解し、褥瘡や難治性潰瘍も含めた創傷処置を適切に実施出来るようになる。
 - ・術後の輸液管理・疼痛管理について理解し、適切に行える。
 - ・合併症を持つ患者や高齢者などパスから逸脱しやすい患者についての術後管理について学ぶ。

3. 外来業務

- ・疾患ごとに聴取すべき事項、注目すべき事項を学ぶ。
- ・疾患・病態別に傷被覆材や外用剤の使い分けを理解し、外来診察での創傷処置が適切に実施出来るようになる。
- ・外来処置の流れを理解し、体位の取り方や機材を含めた対応が出来るようになる。

4. 症例検討会

- ・毎週水曜日外来業務終了後に行われる翌週の手術症例についての術前検討会に参加する。
- ・予定された手術について必要な術前検査や準備、術式、術後管理のポイントについて理解し、予習する。

5. 循環器内科 合同カンファレンス

毎週水曜日、循環器内科と合同で症例検討を行う。共有した症例の経過報告や症例に関するレクチャーなどを含む。

6. Off the job training(OJT)

上級医の指導の下、非定期的に行われる豚心臓を用いた、冠動脈吻合や弁膜症手術のOJT に参加する。また、dry labo として、カンファレンス室でのBeat you can 等のシュミレーターを用いての冠動脈吻合のトレーニングを行う。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 皮膚科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

皮膚科は感染症（白癬、带状疱疹、蜂窩織炎／丹毒など）、アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）、皮膚病変から推測できる全身疾患（デルマトローム）、皮膚腫瘍の手術など、非常に幅広い領域をカバーする診療科である。

皮膚科のローテーションは4 週を基本（最短期間）とし、希望があればこれより長く選択してももちろん構わないが、同時期の研修は1名までとする。

また、以下の5項目を到達目標とする。

1. 皮膚疾患に対する適切な外用剤の選択と軟膏処置ができること、2. よくある皮膚疾患の初期診療ができること、3. 真菌直接鏡検ができるようになること、4. 皮膚生検や簡単な皮膚腫瘍の単純切除術ができるようになること、5. 代表的なデルマトロームについて理解し、専門医に対する適切なコンサルテーションができるようになること。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	病棟
夕				症例カンファレンス	病理カンファレンス

1. 外来
- 平日（月～金曜日9 時から）は初診患者の予診をとり、その後指導医の診療を見学し症例についての理解を深める。
- 皮膚生検や簡単な手術は助手、もしくは指導医の監督のもとに術者として行う。
2. 病棟
- 指導医の監督のもと、入院患者の診療にあたり、ディスカッションを通して治療方針決定に参加する。
- 入院患者の回診を行い、病態を把握するとともに適切な指示や処置を行う。
3. 症例カンファレンス
- 木曜午後外来終了後、皮膚科医局で臨床写真を見て、診断や治療方針等を科内で検討する。
4. 病理カンファレンス
- 金曜の午後外来終了後、皮膚科外来で病理標本を見て、皮膚病理所見を学ぶ。
5. 褥瘡回診
- 金曜13時から形成外科等と合同で行っている。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 泌尿器科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

- ・泌尿生殖器の基本的な解剖、生理を理解する。
- ・排尿障害の原因を挙げ、鑑別のための基本的な評価を行い、初期対応を行うことができる。
- ・血尿の評価と対処ができる。
- ・尿路結石の評価と基本的な対処ができるようになる。
- ・開腹手術と腹腔鏡手術の基本を学び、両者の違いを理解する。
- ・縫合結紮、ドレーンの挿入、管理など基本的な外科的処置の経験を積む。
- ・正しい導尿法、尿路カテーテル管理を実践できるようになる。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	病棟カンファレンス 病棟回診	病棟カンファレンス 病棟回診	病棟カンファレンス 病棟回診	病棟カンファレンス 病棟回診	病棟カンファレンス 病棟回診
午前	手術	病棟または 外来業務	手術	病棟業務または 外来	病棟業務または 外来
午後	手術	手術または 透視下処置	手術	手術または 透視下処置	手術
夕	病棟回診	病棟回診 手術カンファレンス	病棟回診	病棟回診	病棟回診

1. 外来業務

- ・初診患者を中心に外来診療を指導医の監督のもとに行う。
- ・外来患者の簡単な処置を行い（尿道留置カテーテル交換など）、外来検査を見学する（膀胱鏡、検査など）。

2. 病棟業務

- ・主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、入院患者の診療にあたる。
- ・朝夕に担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。
- ・必要に応じて適切なコンサルテーションを計画する。
- ・合併症をもつ高齢者の術前術後の管理を行う。

3. 手術/透視下処置

毎日上級医とともに手術、透視下処置（腎瘻、尿管ステント、膀胱瘻など）に参加し手技を習得できるように努める。各個人の経験、能力に応じて簡単な処置、手術を実施する。

4. 病棟カンファレンス

入院患者のケースプレゼンテーションを行い、同日のプランを他のメンバーとともに立案する。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 眼科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

眼科の基礎的な検査の技術を習得し、基礎的な眼科疾患の診断とプライマリ・ケアが出来る知識を得る。
眼球という特殊な感覚器を取り扱うため、その診断、治療の特殊性を理解するのみならず、失明という「障害」に関する概念を理解する。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
朝	入院患者の 病棟回診	入院患者の 病棟回診	入院患者の 病棟回診	入院患者の 病棟回診	入院患者の 病棟回診
午前	外来の陪席	外来の陪席	外来の陪席	外来の陪席	外来の陪席
午後	眼科検査の実 習	検査実習 未熟児網膜症 の診察の見学	眼科検査の実習	外来の陪席	外来の陪席

1. 外来業務

- ・毎日朝9：00 から眼科外来にて病棟患者、術後患者、外来重症患者の診察を主治医、指導医とともにいき、診察後必要な処方、指示、処置を行う。
- ・新患者の病歴を聴取し、指導医の指示に従い、検査をオーダーする。
- ・検査結果を指導医のもとに評価し、治療方針を決定する。
- ・眼科検査技師について各種眼科検査を学ぶ。
- ・指導医のもとに結膜下注射や涙管通水試験などの処置室での業務を行う。
- ・毎日健康管理センターから送られる眼底写真を指導医とともに読影し、正常眼底と動脈硬化判定、乳頭陥凹、黄斑部異常の写真による評価法を学ぶ。

2. 病棟業務

- ・眼科入院患者の体位保持の指導、全身管理、精神面でのケアを行う。
- ・入院コンサルテーションを主治医とともに診察し、治療を行う。

3. 手技指導

- ・院外の施設にてウェットラボで豚眼を使用し、白内障手術の練習を行う。（月1回）

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 耳鼻咽喉科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

プライマリ・ケア医に必要な耳鼻咽喉科の基礎的な知識、考え方、および手技を修得する。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金	土
午前	外来業務	手術 新患外来 再患	外来	手術 新患外来 再患	新患 再患	外来
午後	外来	手術	検査	手術	新患 再患	
夕			カンファ レンス			

1. 外来業務

- ・指導医のもと、患者の診察にあたり多くの疾患を経験する。
 - ・新患患者の問診を行い診断の進め方を学ぶ。
 - ・基礎的な耳鼻科診察、および耳鼻科検査を修得し、実施する。
- #### 2. 病棟業務・朝夕に担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。
- ・耳鼻科手術後の注意点、診察の要点を学び適切に対処する知識を身に着ける。
 - ・入院患者とのコミュニケーションを行い、担当医としての自覚を養う。

3. 手術

- ・助手として手術に参加。
- ・基本的な外科処置、耳鼻科処置を修得する。

4. 症例カンファレンス

- ・代表的な耳鼻科疾患から病態、診断、治療に関しての一連の流れを理解し、患者に説明できる力を養う。

研修プロセス

病院名： 函館中央病院

診療科名： 病理診断科

1. 特色・ローテーション修了時の到達目標

当科の研修で研修医は主に、病理組織診断報告書の原案作成と検体切り出しの2種類の業務を上級医の監督下に経験する。

病理組織は一般的な検査の報告と異なり、病理医の責任において下される一種の最終診断である。また病理学的手法は研修医にとって、将来の研究、診断、治療において重要なツールになりうるが、その手法を医師人生の中で学習できる機会は少ない。当科の研修において研修医は、顕微鏡の操作や組織標本の観察および所見記載を学び、癌の診断であれば取扱い規約やUICCによって病変を評価し、報告書の原案作成を経験することにより、病理における肉眼的および組織学的な形態所見が臨床像や臨床経過をどのように反映しているか理解を深め、病理診断・外科病理が臨床に占める役割と意義を体得する。

また、研修医が将来に進むほとんどの診療科では病理検体を取り扱う可能性がある。特に外科系の診療科では、検体処理の良し悪しによって病理診断が左右されることを知っておく必要がある。

当科の研修では上級医のサポート下にホルマリン固定後の外科手術検体の切り出し業務を担当することにより、依頼書の情報や肉眼所見の採取が標本作製、引いては病理診断に影響することを理解し、臨床医として適切な病理検体の取扱い方法を学ぶ。

2. 研修スケジュール・方略

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	診断	診断	診断	診断・切出	自習
13:00-17:00	診断・切出	診断・切出	診断・切出	自習	自習
その他	(剖検)	(剖検)	(剖検)	—	(剖検)

1. 診断業務

切出業務を経て作製された手術検体の標本の中から週1～2例程度の病理組織診断を担当する。1日1回程度、上級医とディスカッション顕微鏡で所見の取り方について意見交換を行いながら、自力での鏡検と病理診断システムを用いた診断書の下書きを進める。上級医によって発注された特殊染色や免疫染色を含む追加標本も評価し、形態所見と合わせた所見の総合解釈を検討する。最終的な診断の確定は上級医が行い、研修医は修正点のフィードバックを受ける。必要に応じて臨床医への連絡を行う。不明点については上級医への随時の質問を行う。

2. 手術検体の切出業務

外科手術症例のホルマリン固定後検体について、上級医の監督のもと1日1例程度の切り出しを担当する。手術検体の肉眼所見を評価し、適切な部位を切り出して断面をさらに評価し、組織診断に必要なかつ十分な標本作製の箇所を選定する。

3. 病理解剖（剖検）業務

勤務時間中に剖検の機会が得られた場合、上級医とともに剖検に参加し、解剖所見を採取する。可能であれば後日に臓器の肉眼および組織所見も評価し、上級医の監督下に剖検報告をまとめる。

●臨床研修の目標の達成度判定票

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名：_____

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)		
到達目標	達成状況: 既達／未達	備 考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	☐ 既 ☐ 未	
2.利他的な態度	☐ 既 ☐ 未	
3.人間性の尊重	☐ 既 ☐ 未	
4.自らを高める姿勢	☐ 既 ☐ 未	
B.資質・能力		
到達目標	既達／未達	備 考
1.医学・医療における倫理性	☐ 既 ☐ 未	
2.医学知識と問題対応能力	☐ 既 ☐ 未	
3.診療技能と患者ケア	☐ 既 ☐ 未	
4.コミュニケーション能力	☐ 既 ☐ 未	
5.チーム医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
6.医療の質と安全の管理	☐ 既 ☐ 未	
7.社会における医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
8.科学的探究	☐ 既 ☐ 未	
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	☐ 既 ☐ 未	
C.基本的診療業務		
到達目標	既達／未達	備 考
1.一般外来診療	☐ 既 ☐ 未	
2.病棟診療	☐ 既 ☐ 未	
3.初期救急対応	☐ 既 ☐ 未	
4.地域医療	☐ 既 ☐ 未	
臨床研修の目標の達成状況		☐ 既達 ☐ 未達
(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)		

年 月 日

函館中央病院臨床研修プログラム・プログラム責任者 片岡 宙門

●募集要項

◇募集人員

6名

◇処遇

勤務時間

月～金 8:40 ～ 17:30 土曜日 9:00 ～ 13:00

週 40 時間以内 月単位変形労働時間制（シフト制）

※基本的に研修目的以外の時間外勤務・休日勤務については無し

身分

正職員

給与

基本手当 1年次 400,000円／月（賞与含む）

2年次 410,000円／月（賞与含む）

研究手当 1年次 60,000円／月（19時間分相当）

2年次 70,000円／月（22時間分相当）

※固定残業代として、時間外労働の有無に関わらず支給する。

なお、1年次 19 時間、2 年次 22 時間を超える時間外

労働分についての割増賃金は追加で支給する。

諸手当 扶養手当・通勤手当（当院職員就業規則準拠にて支給）

救急研修手当 1回につき 56,000円～61,000円

住宅手当 60,000円

出張旅費 1年次 200,000円 2年次 250,000円

※旅費は当院支給規定による

社会保険

健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険 加入

賠償責任保険

病院において医師賠償責任保険の加入あり（個人加入は任意）

健康管理

健康診断（年2回）

休暇

年次有給休暇

※1年次 10日／2年次 11日 プラス前年度繰越日数

年末年始休暇（12/30～1/4）

長期休暇（連続休暇3日間＋有給休暇3日）

研修医専用室

レジデントルーム・多目的室（2室／北棟4・5階）完備

◇応募資格

既卒または令和9年卒業見込みで、医師国家試験（第121回）受験予定者

◇応募書類

採用試験申込書 兼 履歴書（写真貼付）（当院指定書式による）

卒業（見込）証明書、成績証明書

◇選考方法

面接試験（対面）を行って選考し、医師臨床研修マッチングにより決定

◇選考試験

令和8年7月29日・8月5日・8月19日・8月26日・9月2日

当院院長室にて ※宿泊手配と交通費一部支給

◇参考

採用実績 … 北大・札医大・旭医大・東邦大・秋田大・信州大・日大・岩手医大
山形大・香川大・帝京大・弘前大・昭和大・三重大・千葉大・山梨大
神戸大・琉球大・順天堂大・東京科学大・東京女子医大・九州大
日本医科大・東北医科薬科大